

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その教育の目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成しようとする人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到係る状況）

本校では「Ⅱ 目的」に示すように、学生が卒業時に身につける学力や資質・能力を定め、それぞれに対応した授業科目を配置している（資料6-1-①-1：学科毎のカリキュラム全体像）。授業科目は学習支援計画書（シラバス）の評価方法に従い達成度評価を行い、この積み重ねとして学生が卒業時に身につける学力や資質・能力は、資料6-1-①-1：学科毎のカリキュラム全体像の資質AからE毎の授業科目の単位修得状況で達成状況を把握している。全必修科目の修得を資質の最低条件とし、選択科目の修得は、その上積みとしている。また、学生は授業アンケートとKTC総合アンケートで自己点検を行い、達成度を確認している。

特別活動では「Ⅱ 目的」に係る重要な科目と位置づけ、キャリアデザインや、薬物に関する講話をはじめ各種講習会などに取組んでおり、1年から5年まで年間30単位時間以上を卒業要件としている（資料6-1-①-2：平成24年度特別活動予定表）。これら平素の学業成績と特別活動の状況を併せて評価のうえ、進級・卒業判定を行っている（資料6-1-①-3：学則第4章教育課程等、資料6-1-①-4：金沢工業高等専門学校学務会議規程、資料6-1-①-5：学務会議議事録）。

(3) グローバル情報工学科

図8. グローバル情報工学科のカリキュラム全体像

| 学年・目標 | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 5年次 |
|--|---|---|---|---|---|
| <p>学業目標</p> <p>21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成</p> <p>行動規範</p> <p>4. Attitudes of Heart 5. Integrity 6. Energy 7. Team Spirit 8. Innovation 9. Creativity 10. Leadership 11. Social Responsibility</p> <p>建学の精神</p> <p>人間形成 技術革新 産業発展</p> | <p>人間性</p> <p>1. 人間と自然 I (A) 2. 情報倫理 I (A) 3. 英語 I (A) 4. 数学 I (A)</p> | <p>人間性</p> <p>1. 人間と自然 II (A) 2. 情報倫理 II (A) 3. 英語 II (A) 4. 数学 II (A)</p> | <p>人間性</p> <p>1. 人間と自然 III (A) 2. 情報倫理 III (A) 3. 英語 III (A) 4. 数学 III (A)</p> | <p>人間性</p> <p>1. 人間と自然 IV (A) 2. 情報倫理 IV (A) 3. 英語 IV (A) 4. 数学 IV (A)</p> | <p>人間性</p> <p>1. 人間と自然 V (A) 2. 情報倫理 V (A) 3. 英語 V (A) 4. 数学 V (A)</p> |
| <p>個性</p> <p>1. 個性 I (B) 2. 個性 II (B) 3. 個性 III (B) 4. 個性 IV (B) 5. 個性 V (B)</p> | <p>個性</p> <p>1. 個性 I (B) 2. 個性 II (B) 3. 個性 III (B) 4. 個性 IV (B) 5. 個性 V (B)</p> | <p>個性</p> <p>1. 個性 I (B) 2. 個性 II (B) 3. 個性 III (B) 4. 個性 IV (B) 5. 個性 V (B)</p> | <p>個性</p> <p>1. 個性 I (B) 2. 個性 II (B) 3. 個性 III (B) 4. 個性 IV (B) 5. 個性 V (B)</p> | <p>個性</p> <p>1. 個性 I (B) 2. 個性 II (B) 3. 個性 III (B) 4. 個性 IV (B) 5. 個性 V (B)</p> | <p>個性</p> <p>1. 個性 I (B) 2. 個性 II (B) 3. 個性 III (B) 4. 個性 IV (B) 5. 個性 V (B)</p> |
| <p>国際性</p> <p>1. 国際性 I (C) 2. 国際性 II (C) 3. 国際性 III (C) 4. 国際性 IV (C) 5. 国際性 V (C)</p> | <p>国際性</p> <p>1. 国際性 I (C) 2. 国際性 II (C) 3. 国際性 III (C) 4. 国際性 IV (C) 5. 国際性 V (C)</p> | <p>国際性</p> <p>1. 国際性 I (C) 2. 国際性 II (C) 3. 国際性 III (C) 4. 国際性 IV (C) 5. 国際性 V (C)</p> | <p>国際性</p> <p>1. 国際性 I (C) 2. 国際性 II (C) 3. 国際性 III (C) 4. 国際性 IV (C) 5. 国際性 V (C)</p> | <p>国際性</p> <p>1. 国際性 I (C) 2. 国際性 II (C) 3. 国際性 III (C) 4. 国際性 IV (C) 5. 国際性 V (C)</p> | <p>国際性</p> <p>1. 国際性 I (C) 2. 国際性 II (C) 3. 国際性 III (C) 4. 国際性 IV (C) 5. 国際性 V (C)</p> |
| <p>競争力</p> <p>1. 競争力 I (D) 2. 競争力 II (D) 3. 競争力 III (D) 4. 競争力 IV (D) 5. 競争力 V (D)</p> | <p>競争力</p> <p>1. 競争力 I (D) 2. 競争力 II (D) 3. 競争力 III (D) 4. 競争力 IV (D) 5. 競争力 V (D)</p> | <p>競争力</p> <p>1. 競争力 I (D) 2. 競争力 II (D) 3. 競争力 III (D) 4. 競争力 IV (D) 5. 競争力 V (D)</p> | <p>競争力</p> <p>1. 競争力 I (D) 2. 競争力 II (D) 3. 競争力 III (D) 4. 競争力 IV (D) 5. 競争力 V (D)</p> | <p>競争力</p> <p>1. 競争力 I (D) 2. 競争力 II (D) 3. 競争力 III (D) 4. 競争力 IV (D) 5. 競争力 V (D)</p> | <p>競争力</p> <p>1. 競争力 I (D) 2. 競争力 II (D) 3. 競争力 III (D) 4. 競争力 IV (D) 5. 競争力 V (D)</p> |
| <p>専門力</p> <p>1. 専門力 I (E) 2. 専門力 II (E) 3. 専門力 III (E) 4. 専門力 IV (E) 5. 専門力 V (E)</p> | <p>専門力</p> <p>1. 専門力 I (E) 2. 専門力 II (E) 3. 専門力 III (E) 4. 専門力 IV (E) 5. 専門力 V (E)</p> | <p>専門力</p> <p>1. 専門力 I (E) 2. 専門力 II (E) 3. 専門力 III (E) 4. 専門力 IV (E) 5. 専門力 V (E)</p> | <p>専門力</p> <p>1. 専門力 I (E) 2. 専門力 II (E) 3. 専門力 III (E) 4. 専門力 IV (E) 5. 専門力 V (E)</p> | <p>専門力</p> <p>1. 専門力 I (E) 2. 専門力 II (E) 3. 専門力 III (E) 4. 専門力 IV (E) 5. 専門力 V (E)</p> | <p>専門力</p> <p>1. 専門力 I (E) 2. 専門力 II (E) 3. 専門力 III (E) 4. 専門力 IV (E) 5. 専門力 V (E)</p> |

(出典 学生便覧 2012 P. 18-19、22-23、26-27)

学則第 4 章教育課程等

第 4 章 教育課程等

第 8 条 1 年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

第 8 条の 2 本校の授業科目は、その内容により、各学科に共通する一般科目及び学科ごとの専門科目に分ける。

2 前項に定める授業科目のほか特別活動を実施する。

第 9 条 本校は、本校及び学科の教育目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

2 教育課程は、各授業科目を各学年に配当して編成する。

3 各授業科目の単位数と学年別配当は、別表第 1 のとおりとする。

4 各授業科目の単位数は、30 単位時間(1 単位時間は標準 50 分とする。次項及び第 9 条において同じ。)の履修を 1 単位として計算するものとする。

5 前項の規定にかかわらず、授業科目のうち別に定める講義及び演習については、1 単位の授業科目を 45 単位時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、1 単位を 15 単位時間の授業をもって計算する。

6 前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計は、60 単位を超えないものとする。

7 前 3 項の規定にかかわらず、インターンシップ及び卒業研究については、その学修の成果を評価して単位の修得を認定することとし、その単位数については、別表第 1 による。

8 特別活動は、第 1 学年から第 5 学年まで各学年 30 単位時間以上実施するものとする。

第 10 条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を、30 単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第 11 条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

2 前項により認定することができる単位数は、前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて 30 単位を超えないものとする。

3 第 1 項の規定は、学生が、外国の大学又は高等学校に留学する場合及び外国の大学が行う通信教育における授業科目を、我が国において履修する場合について準用する。この場合において認定することができる単位数の合計数は 30 単位を超えないものとする。

第 12 条 各学年の課程の修了及び卒業の認定は、学生の卒業の学業成績のほか、特別活動の状況を併せて評価のうえ、校長が行う。

2 前項に規定する評価については、別に定める金沢工業高等専門学校学習指導に関する実施規程による。

3 各学年の課程の修了又は卒業が認められなかった者は早学年に留める。

(出典 学生便覧 2012 P. 35)

金沢工業高等専門学校学務会議規程

○金沢工業高等専門学校学務会議規程

(平成 4 年 4 月 1 日施行)

改正 平成 15 年 4 月 1 日 平成 16 年 4 月 1 日
平成 18 年 4 月 1 日

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校学務会議（以下「学務会議」という。）について必要な事項について定める。

第 2 条 学務会議は、校長のほか次の者をもって構成する。

- (1) 副校長
- (2) 教務主事、学生主事、研究主事及び進路指導主事
- (3) 電気情報工学科長、機械工学科長及び国際コミュニケーション情報工学科長
- (4) 事務局長
- (5) その他、校長が指名する者

第 3 条 学務会議は、次の事項について審議する。

- (1) 教育研究の質的向上に関する事項
- (2) 学則、その他教育研究に係る重要な規則に関する事項
- (3) 教育課程編成に関する事項
- (4) 学生の入学、退学、進級、休学、卒業の認定及び留学に関する事項
- (5) 学生の厚生補導に関する事項
- (6) 学生の賞罰に関する事項
- (7) 認証評価機関による第三者評価に関する事項
- (8) その他、校長からの諮問事項

第 4 条 学務会議は毎月開催するものとし、校長が招集する。又、校長が必要と認めるときは随時、開催することができる。

2 学務会議の議長は、校長が当たり、会務を主宰する。

第 5 条 議長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

第 6 条 学務会議の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後、これを保管する。

附 則

- 1 この規程は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から改正施行する。
- 4 この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から改正施行する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

学務会議議事録

平成23年度 第26回 学務会議

日 時：平成24年3月7日（木）16:00～

場 所：会議室

出席者：山田弘文、南出章幸、大崎富雄、松本 裕、高橋大雄、直江伸至、伊藤恒平、
元木光雄、香林利男、大原しのぶ、向井 守、山岸 徹、宮西瑞子

欠席者：

・校長挨拶

案件

Ⅰ 協議事項

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1) 5年生卒業資格判定について | (教務主事) |
| 2) 卒業式・終業式表彰褒賞受賞者について | (学生主事) |
| 3) 学生指導規則について | (学生主事) |
| 4) 平成24年度校務分担について | (校長) |
| 5) 地域連携教育センターの運営について | (校長) |
| 6) 平成24年度のクラブ運営費について | (校長) |

Ⅱ 報告事項

- | | |
|---|----------|
| 1) 平成23年度教育成果発表会について | (研究主事) |
| 2) 「平成23年度教育改善成果に関する自己点検評価」及び「平成24年度教育改善に対する取り組みと目標」の提出について | (研究主事) |
| 3) 安全点検の実施について | (研究主事) |
| 4) 進路指導報告 | (進路指導主事) |

以上

(出典 学務会議資料)

授業毎の達成状況は成績評価とは別に授業アンケートの満足度と併せて多面的に把握している（資料6-1-①-6：授業アンケート抜粋）。

本校の教育全体の達成状況については、KTC総合アンケートを実施し、特に5年生に対しては「社会で求められる人材像」に関する項目を設け、学生の自己評価と教職員による学生評価として把握している（資料6-1-①-7：KTC総合アンケート抜粋）。

資料6-1-①-7

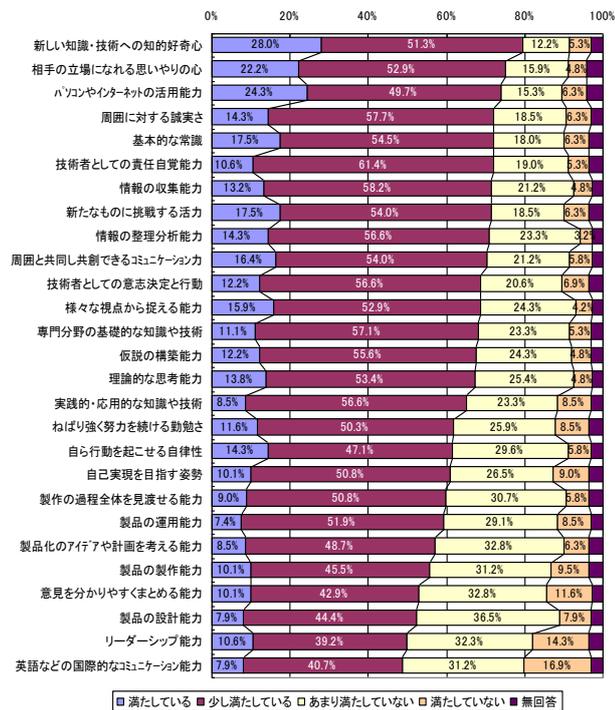
KTC 総合アンケート抜粋

<6-1> 学生の能力に関して

■自分自身の能力の評価

- 「学生自身の現段階の自分自身の能力」に関しては、4年生、5年生の2学年だけに聞いている。
- 「満たしている」と「少し満たしている」を合わせた割合で比較すると、「新しい知識・技術への知的好奇心」で79.3%が満たしていると答えており、学生が最も強みと感じている点と言える。
- 上記に次いで「相手の立場になれる思いやりの心」(75.1%)、「パソコンやインターネットの活用能力」(74.0%)、「周囲に対する誠実さ」「基本的な常識」「技術者としての責任自覚能力」(72.0%)と続いており、これらも強みと感じているようであった。
- 一方、最も自信を持てていなかったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」であり、満たしているという回答は48.6%であった。そして、「リーダーシップ能力」(49.8%)、「製品の設計能力」(52.3%)、「意見を分かりやすくまとめる能力」(53.0%)と続いていた。

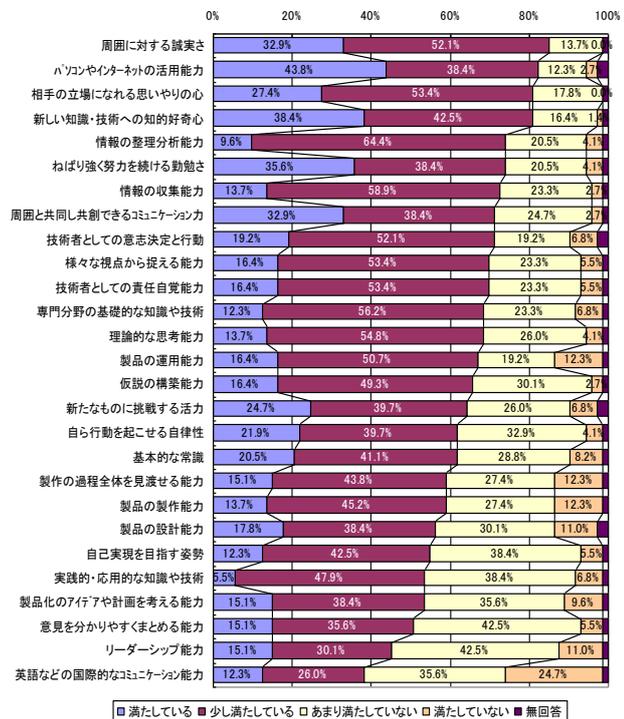
■学生が考える現段階の自分自身の能力



■卒業生による自分自身の能力の評価

- 今回は卒業生に卒業時の自分自身の能力の評価を聞いた。「満たしている」と「少し満たしている」を合わせた割合で比較すると、最も評価が高かった項目は「周囲に対する誠実さ」であり、85.0%が満たしていると評価していた。
- 上記に次いで高かったのは「パソコンやインターネットの活用能力」で、82.2%が肯定的な意見であったが、この項目では「満たしている」という回答が43.8%と多く、この点を強く特徴だと感じているようであった。
- 上記に「相手の立場になれる思いやりの心」「新しい知識・技術への知的好奇心」を加えた4項目は肯定的な意見が80%を超えており、これらが卒業生が感じる金沢高専卒業生の強みといえる。
- 一方、自己評価が最も低かったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」であり、満たしているという回答は38.3%にとどまった。他に「リーダーシップ能力」「意見を分かりやすくまとめる能力」「製品化のアイデアや計画を考える能力」なども低かった。

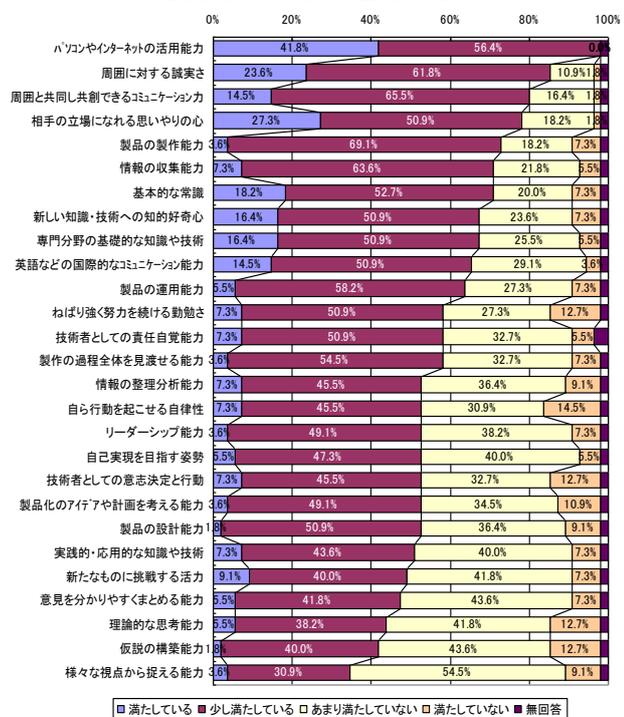
■卒業生が考える卒業時点の自分自身の能力



■教職員による卒業生の能力の評価

- 教職員には卒業生の卒業時の能力の評価を聞いているが、最も評価が高かったのは「パソコンやインターネットの活用能力」であり、98.2%が肯定的な意見であり、他の項目と比べて突出していた。
- 上記に次いで「周囲に対する誠実さ」では肯定的な意見が85.4%、「周囲と共同し共創できるコミュニケーション力」が80.0%、「相手の立場になれる思いやりの心」が78.2%と続いていた。
- 上位のものを見ると、「誠実さ」「コミュニケーション力」「思いやりの心」など、周囲との関係づくりの評価が高いように思われた。
- 一方、最も肯定的な意見が少なかったのは「様々な視点から捉える能力」であり、肯定的な意見は34.5%であった。
- 他に低かった項目は「仮説の構築能力」で肯定的な意見が41.8%、「理論的な思考能力」で43.7%、「意見を分かりやすくまとめる能力」が47.3%であった。
- 評価の低いものを見ると、「様々な視点」「仮説構築」「理論的な思考」「意見を分かりやすくまとめる」など、実践的な能力や理論的な思考能力といった面が弱いという評価であった。

■教職員による金沢高専卒業生の能力評価



(出典 KTC 教育評価委員会資料)

これら達成状況、授業アンケート、KTC総合アンケートの結果は、KTC教育評価委員会で総合的に評価し改善している（資料 6-1-①-8：KTC教育評価委員会規程）。改善の具体例として平成18年

度からキャリアデザイン教育を全学的に展開し、その取組は文部科学省GP事業に選定された。キャリアデザイン教育は、目標や価値観、体験、思考、獲得した人間力をポートフォリオに文章やデータで継続して蓄積し省察することにより、学生自身が人生を主体的に切り開いていくための意欲と行動力、すなわち、社会で自分を生かしていける能力を5年間の学生生活の中で身につけていくものであり、これを基に学生個別の達成状況の参考にしている（資料6-1-①-9：キャリアデザイン教育ウェブサイト）。

資料6-1-①-8

KTC 教育評価委員会規程

○KTC教育評価委員会規程

(平成11年4月1日施行)

改正 平成16年4月1日

(委員会の目的)

第1条 この規程は、管理規則第4条第1項第3号ロに定めるKTC教育評価委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定める。

(委員会の設置)

第2条 委員会は、金沢工業高等専門学校（以下「本校」という。）が実施する教育活動全般についての自己及び外部点検評価の結果を確認することで、建学の精神に基づく教育活動の活性化となお一層の教育改革の推進に資することを目的とする。

(委員会の役割)

第3条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1) 教務主事及び研究主事
- (2) 学科長
- (3) 校長が指名する者
- (4) 事務局長

2 教務主事は、委員長となり会務を主宰する。

(委員会の運営)

第4条 委員会は、委員長が招集し議長を務める。

- 2 議長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。
- 4 委員長は、委員会で審議した事項を十年委員会に報告するため、委員会報告を取り纏め校長に提出しなければならない。
- 5 委員長は、委員会報告を校長に提出するにあたり、本校の各種委員会との円滑な連携を図るため、事前に報告内容について学務会議の同意を得なければならない。

(委員会の事務)

第5条 委員会の事務は、事務局が行う。

- 2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

附 則

- 1 この規程は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、平成16年4月1日から改正施行する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

キャリアデザイン教育ウェブサイト

HOME 本取組の目的・内容 キャリアデザイン教育の概要 取組スケジュール キャリアデザインノート お問い合わせ

本取組の目的

本取組は、金沢高専の理念に基づき、高度な人間性・応用能力の育成を目的とするキャリアデザイン教育の取組により、学生が、就業や課外活動で得た知識・スキルを統合し自身のキャリア形成につなげようとするものです。

同時に、学生が社会に役立つ重要な役割を担っており、自己理解を深め、就職を人生とらえ、広い視野のもとで考え、自己実現に向けて行動する力を育成します。

具体的には、1年次より段階的に就業活動の向上を図るため、多くの効果的な研修機会を提供し、そこで得た知識や経験をキャリアデザインノートおよび教職員との連携により体系的に整理してゆくことを通じて学生の自信と主体性を育みます。学生は、自ら進路を選択し、それに向かって積極的に行動できるようになることを目標とします。

本取組の具体的な内容

本取組では、就業活動およびエンプロイアビリティの育成を図るキャリアデザイン教育を実施します。同教育に関する具体的な内容は次の通りです。

- 1. キャリアデザインノート**
キャリアデザインの手法を取り入れ、学生が整理しやすく、かつ教職員との連携や活用しやすく、ノートも活用し活用する。
キャリアデザインノートは、中学校を卒業したばかりの1年次より段階的に就業活動につけられるものを目指す。
■キャリアデザインノート
- 2. 企業訪問**
金沢高専では、毎年夏期休暇を利用して4年生全員がインターンシップに参加している。インターンシップは、単なる就業体験ではなく、これまで学んだ知識や技術が社会の場において生かせるかどうかを学生自身が自己体験し、自身の学生生活で何を目標とし何を学習していかを明確にする良い機会となっている。しかし、企業側のリソースが限られておられることにより、受入企業数が限られていた。
そこで、選考指導委員会が中心となり企業を訪問し、1学年のインターンシップ受入れ先および就職先の関係を行う。
- 3. 工場見学**
学生の企業現場に対する理解や就業活動の醸成を目的に、10・11月に1～4年生の工場見学を実施する。
現場を見たり、働く人の話を聞くことにより、「やりたい仕事」「やりたい内容」を考える機会をえ、学生が自ら進路選択できる力を育成する。
- 4. 卒業生講演および合同企業説明会**
毎年11月に実施される4年生の卒業研究にて、卒業生等を講師とする講演、説明会を行う。また、合同企業説明会を開催し、業種・職種、企業の魅力等を具体的に知る機会を提供する。
- 5. 教職員対象キャリア研修会**
キャリアデザイン教育は、すべてを学生任せにすべきではなく、また、子ども扱いや押しつけがましい、行き過ぎた指導にならないよう注意し、学生の卒業後の成功まで考え、本人が気づく機会や機会・指導が行える機会を効果的に提供していくことが大切になる。そこで、FDの一環として有識者によるキャリア研修会を開催し、教職員のキャリアカウンセリング能力向上およびキャリアデザイン教育の促進を図る。
FD(Faculty Development)とは、教育指導能力の開発・向上を目的とする活動の総称です。
- 6. 情報公開**
ホームページにて本取組を紹介し、パンフレットを工業高校、高等専門学校、大学等へ送ることにより、本取組の内容、過程、成果等を積極的に発信していく。また、3月の「教育政策委員会(公開委員会)」にて実施状況等を発表する。さらに、キャリアデザインノートをホームページに掲載しダウンロードできるようにする。
■キャリアデザインノート

PAGETOP

(出典 金沢工業高等専門学校ウェブサイト)

(分析結果とその根拠理由)

授業アンケート及びKTC総合アンケートにより達成状況を把握し、総合的に評価改善を行っている。改善例として取組んだキャリアデザイン教育は文部科学省のGP事業に選定され、学生個別の達成状況の参考にされている。以上のことから「Ⅱ 目的」に沿って、学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力、養成しようとする人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているといえる。

観点6-1-②： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校では、各学年や卒業時等において学生が身に付ける学力や資質・能力については、観点6-1-①のように達成状況を把握し評価していることから、休学・留年・退学・進級・卒業の状況を指標としている。ここ5年間の休学は1から3名、留年率は3%未満、退学率は4%未満で推移している。1年生から4年生までの進級率は90%から100%の範囲、5年生の卒業率は97%を超えている（資料6-1-②-1：学籍状況）。

また、5年生には卒業時にKTC総合アンケートで「社会で求められる人材像」の自己評価を行っていることから、この結果を合わせて総合的に教育の成果や効果について判断している（資料6-1-②-2：社会で求められる人材像）。

学籍状況

| 異動 | 平成19年度 | | | | | 平成20年度 | | | | | 平成21年度 | | | | | 平成22年度 | | | | | 平成23年度 | | | | | 平成24年度 | | | | | | | | | | |
|----------------------|--------|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 計 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 計 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 計 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 計 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | | | | | | | |
| 4月1日現在在籍数 | 106 | 128 | 112 | 125 | 129 | 600 | 118 | 109 | 114 | 107 | 120 | 568 | 85 | 110 | 104 | 114 | 103 | 516 | 121 | 83 | 102 | 105 | 106 | 517 | 144 | 117 | 85 | 95 | 101 | 542 | 135 | 135 | 110 | 84 | 89 | 553 |
| (\searrow 定員)[%] | 79 | 95 | 83 | 93 | 96 | | 87 | 81 | 84 | 79 | 89 | | 71 | 81 | 77 | 84 | 76 | | 100 | 69 | 76 | 78 | 79 | | 120 | 98 | 71 | 70 | 75 | | 113 | 113 | 92 | 70 | 66 | |
| 休学状况 | | | | | | 1 | 1 | | 1 | | 2 | 3 | | | | | 3 | 1 | | | 1 | | 2 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | |
| (\searrow 在籍数)[%] | | | | 0.8 | | 0.2 | | 0.9 | | | 0.4 | 3.5 | | | | 0.6 | 0.8 | | | 1.0 | | 0.4 | 0.7 | | | | | 0.2 | | | | | | | | |
| 留年状况 (前年度留年生) | 1 | 5 | 1 | 1 | | 8 | 1 | 5 | 2 | | 8 | 3 | | 4 | | 7 | 3 | 3 | 2 | 2 | 1 | 9 | 3 | 2 | 5 | 3 | 1 | 14 | 4 | 2 | | | | 8 | | |
| (\searrow 在籍数)[%] | 0.9 | 3.9 | 0.9 | 0.8 | | 1.3 | 0.8 | 4.6 | 1.8 | | 1.4 | 3.5 | | 3.5 | | 1.4 | 2.5 | 3.6 | 1.9 | 0.9 | 1.7 | 2.1 | 1.7 | 5.9 | 3.2 | 1.0 | 2.6 | 3.0 | 1.5 | | | | 2.4 | | | |
| 退学状况 | 1 | 9 | 7 | 3 | | 20 | 5 | 1 | 4 | 2 | 16 | 2 | 5 | 2 | 7 | 1 | 17 | 3 | 1 | 5 | 2 | 2 | 13 | 7 | 5 | 3 | 4 | 1 | 20 | | | | | | | |
| (\searrow 在籍数)[%] | 0.9 | 7.0 | 6.3 | 2.4 | 0 | 3.3 | 4.2 | 0.9 | 3.5 | 3.7 | 2.8 | 2.4 | 4.5 | 1.9 | 6.1 | 1.0 | 3.3 | 2.5 | 1.2 | 4.9 | 1.9 | 1.9 | 2.5 | 4.9 | 4.3 | 3.5 | 4.2 | 1.0 | 3.7 | | | | | | | |
| 卒業状况 | | | | | | 129 | | | | | 118 | | | | | | 101 | | | | | | 103 | | | | | | 100 | | | | | | 100 | |
| 進級状况 | | | | | | 443 | | | | | 427 | | | | | | 389 | | | | | | 387 | | | | | | 414 | | | | | | 414 | |
| 3月31日現在 | 105 | 119 | 105 | 122 | | 451 | 113 | 104 | 110 | 107 | 434 | 83 | 105 | 102 | 107 | 1 | 388 | 118 | 82 | 97 | 103 | 1 | 401 | 137 | 112 | 82 | 91 | 422 | | | | | | 422 | | |
| 一次年度留年数 | 1 | 5 | 2 | | | 8 | 3 | | 4 | | 7 | 3 | 3 | 2 | 1 | 9 | 3 | 2 | 5 | 3 | 1 | 14 | 4 | 2 | 2 | 2 | | 8 | | | | | | 8 | | |
| 進級率 | 98 | 89 | 92 | 98 | 100 | | 93 | 95 | 96 | 100 | 98 | 94 | 93 | 88 | 92 | 98 | 95 | 96 | 90 | 95 | 97 | | 95 | 94 | 96 | 94 | 99 | | | | | | | | | |
| 3月31日現在在籍数 | 105 | 119 | 105 | 122 | | 451 | 113 | 104 | 110 | 107 | 434 | 83 | 105 | 102 | 107 | 1 | 388 | 118 | 82 | 97 | 103 | 1 | 401 | 137 | 112 | 82 | 91 | 422 | | | | | | 422 | | |

(出典 学務会議資料)

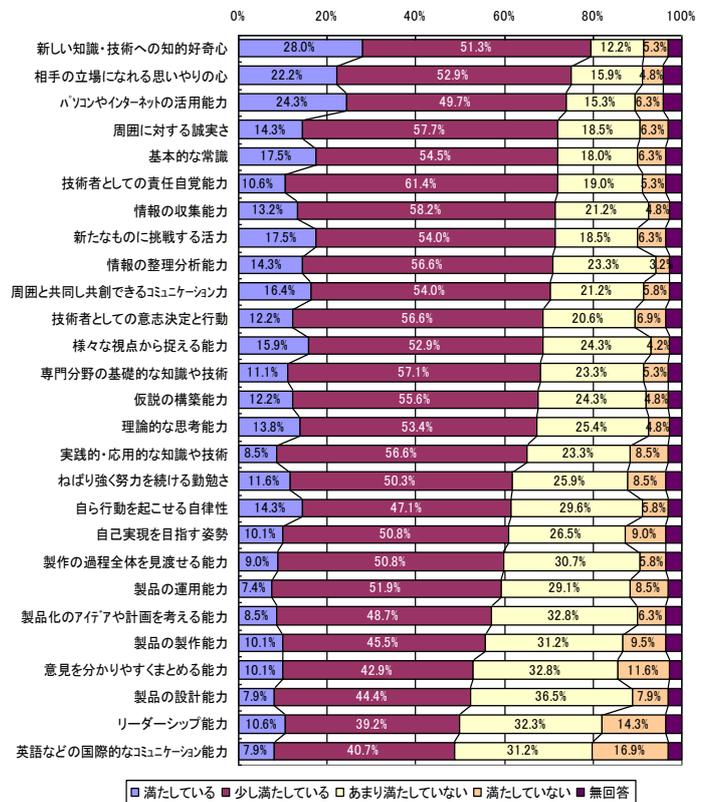
社会で求められる人材像

<6-1> 学生の能力に関して

■自分自身の能力の評価

- 「学生自身の現段階の自分自身の能力」に関しては、4年生、5年生の2学年だけに聞いている。
- 「満たしている」と「少し満たしている」を合わせた割合で比較すると、「新しい知識・技術への知的好奇心」で79.3%が満たしていると答えており、学生が最も強みと感じている点と言える。
- 上記に次いで「相手の立場になれる思いやりの心」(75.1%)、「パソコンやインターネットの活用能力」(74.0%)、「周囲に対する誠実さ」(72.0%)と続いており、これらも強みと感じているようであった。
- 一方、最も自信を持っていなかったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」であり、満たしているという回答は48.6%であった。そして、「リーダーシップ能力」(49.8%)、「製品の設計能力」(52.3%)、「意見を分かりやすくまとめる能力」(53.0%)と続いていた。

■学生が考える現段階の自分自身の能力



(出典 KTC 教育評価委員会資料)

就職率は 100%を維持していることや、「Ⅱ 目的」に合致する企業に就職していることなどから、産業界からも、本校の教育の成果や効果が評価されていると判断している（就職の詳細は観点 6 - 1 - ③）。

(分析結果とその根拠理由)

休学・留年・退学・進級・卒業の状況は一般的にいわれる割合の範囲内と認識している。また、卒業時に「社会で求められる人材像」の自己評価の結果や、就職率100%などから、教育の成果や効果が上がっているといえる。

観点6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校の進路決定状況は、就職70%、進学30%で推移している（資料6-1-③-1：卒業後の進路状況）。

就職率は100%を維持しており、職業別には専門的・技術的職業従事者が多く、産業別には製造業が多くを占めている（資料6-1-③-2：就職状況（職業別）、資料6-1-③-3：就職状況（産業別））。平成23年度の就職先は資料6-1-③-4：進路先一覧のとおりである。

進学希望者に対する進学率も100%を維持しており、進学先は金沢工業大学及び他大学編入と、一部は海外大学に進学している（資料6-1-③-5：進学状況（進学者数）、資料6-1-③-6：進学状況（進学先））。

資料6-1-③-1

卒業後の進路状況

| 年度 | 学科 | 在籍者 | | 進学者 | | 就職者 | | |
|--------|------------------|------------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| | | 卒業生数 | 留学者等 | 希望者数 | 合格者数 | 希望者数 | 内定者数 | 内定率(%) |
| 平成18年度 | 電気情報工学科 | 74 | 0 | 26 | 26 | 48 | 48 | 100 |
| | 機械工学科 | 43 | 0 | 11 | 11 | 32 | 32 | 100 |
| | 総計 | 117 | 0 | 37 | 37 | 80 | 80 | 100 |
| 平成19年度 | 電気情報工学科 | 49 | 0 | 17 | 17 | 32 | 32 | 100 |
| | 機械工学科 | 52 | 0 | 11 | 11 | 41 | 41 | 100 |
| | 国際コミュニケーション情報工学科 | 28 | 0 | 13 | 13 | 15 | 15 | 100 |
| | 総計 | 129 | 0 | 41 | 41 | 88 | 88 | 100 |
| 平成20年度 | 電気情報工学科 | 38 | 0 | 1 | 1 | 37 | 37 | 100 |
| | 機械工学科 | 46 | 0 | 15 | 15 | 31 | 31 | 100 |
| | 国際コミュニケーション情報工学科 | 34 | 0 | 9 | 9 | 24 | 24 | 100 |
| | 総計 | 118 | 0 | 25 | 25 | 92 | 92 | 100 |
| 平成21年度 | 電気情報工学科 | 32 | 0 | 10 | 9 | 22 | 22 | 100 |
| | 機械工学科 | 42 | 0 | 18 | 18 | 24 | 24 | 100 |
| | 国際コミュニケーション情報工学科 | 27 | 0 | 13 | 13 | 13 | 13 | 100 |
| | 総計 | 101 | 0 | 41 | 40 | 59 | 59 | 100 |
| 平成22年度 | 電気情報工学科 | 30 | 0 | 5 | 5 | 25 | 25 | 100 |
| | 機械工学科 | 41 | 0 | 18 | 18 | 23 | 23 | 100 |
| | 国際コミュニケーション情報工学科 | 32 | 0 | 19 | 19 | 13 | 13 | 100 |
| | 総計 | 103 | 0 | 42 | 42 | 61 | 61 | 100 |
| 平成23年度 | 電気情報工学科 | 30 | 0 | 9 | 9 | 21 | 21 | 100 |
| | 機械工学科 | 37 | 0 | 13 | 13 | 24 | 24 | 100 |
| | 国際コミュニケーション情報工学科 | 33 | 0 | 9 | 9 | 24 | 24 | 100 |
| | 総計 | 100 | 0 | 31 | 31 | 69 | 69 | 100 |

（出典 進路指導委員会資料）

就職状況（職業別）

| | | 職業別就職者数 | | | | | | | | | |
|--------|----------------------|------------------|-----------|-----------|-----------|----------------|----------|-------------------|--|------------------|--------|
| | | 専門的・技術的 職業従事者 | 管理的 職業 | 事務 従事者 | 販売 従事者 | サー ビス 職業 | 保安 職業 | 運 輸・ 通 信 | 生 産 工 程・ 労 務 作 業 者 | 左 記 以 外 | 合 計 |
| 平成19年度 | 電気情報工学科 | 26 | | | 1 | 3 | | 2 | | | 32 |
| | 機械工学科 | 37 | | | | 2 | | | 2 | | 41 |
| | 国際コミュニケーション 情報工学科 | 8 | | | 2 | 3 | | 2 | | | 15 |
| | 計 | 71 | 0 | 0 | 3 | 8 | 0 | 4 | 0 | 2 | 88 |
| 平成20年度 | 電気情報工学科 | 30 | | | | 5 | | 2 | | | 37 |
| | 機械工学科 | 27 | | | 1 | 3 | | | | | 31 |
| | 国際コミュニケーション 情報工学科 | 11 | | | 4 | 4 | | 5 | | | 24 |
| | 計 | 68 | 0 | 0 | 5 | 12 | 0 | 7 | 0 | 0 | 92 |
| 平成21年度 | 電気情報工学科 | 18 | | | | 3 | | 1 | | | 22 |
| | 機械工学科 | 21 | | | 2 | 1 | | | | | 24 |
| | 国際コミュニケーション 情報工学科 | 3 | | | 3 | 3 | | 2 | | 2 | 13 |
| | 計 | 42 | 0 | 0 | 5 | 7 | 0 | 3 | 0 | 2 | 59 |
| 平成22年度 | 電気情報工学科 | 20 | | | 1 | 3 | | 1 | | | 25 |
| | 機械工学科 | 20 | | | 2 | 1 | | | | | 23 |
| | 国際コミュニケーション 情報工学科 | 4 | | | 2 | 4 | | 2 | | 1 | 13 |
| | 計 | 44 | 0 | 0 | 5 | 8 | 0 | 3 | 0 | 1 | 61 |
| 平成23年度 | 電気情報工学科 | 20 | | | | 1 | | | | | 21 |
| | 機械工学科 | 19 | | | 1 | 4 | | | | | 24 |
| | 国際コミュニケーション 情報工学科 | 16 | | | | 7 | | | | 1 | 24 |
| | 計 | 55 | 0 | 0 | 1 | 12 | 0 | 0 | 0 | 1 | 69 |

(出典 進路指導委員会資料)

就職状況（産業別）

| | | 産 業 別 就 職 者 数 | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|----------------------|---------------|--------|--------|--------|-------------|-------------|---|----------------------------|---|----------------------------|------------------|-----------------------|--------|------------------|--------|
| | | 農 業 | 林 業 | 漁 業 | 鉱 業 | 建 設 業 | 製 造 業 | 熱 供 給 ・ 電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業 | 運 輸 ・ 通 信 業 | 卸 売 ・ 小 売 業 飲 食 店 | 金 融 ・ 保 険 業 | 不 動 産 業 | サ ー ビ ス 業 | 公 務 | 左 記 以 外 | 合 計 |
| 平成17年度 | 電気工学科 | | | | | 5 | 27 | 1 | 2 | 2 | | | 10 | | | 47 |
| | 機械工学科 | | | | | 1 | 13 | | | 1 | | | 3 | | | 18 |
| | 計 | | | | | 6 | 40 | 1 | 2 | 3 | | | 13 | | | 65 |
| 平成18年度 | 電気工学科 | | | | | 4 | 22 | 2 | 5 | 5 | | | 9 | 1 | | 48 |
| | 機械工学科 | | | | | 2 | 23 | | 1 | 2 | | | 3 | 1 | | 32 |
| | 計 | | | | | 6 | 45 | 2 | 6 | 7 | | | 12 | 2 | | 80 |
| 平成19年度 | 電気情報工学科 | | | | | 3 | 21 | 2 | 2 | 1 | | | 3 | | | 32 |
| | 機械工学科 | | | | | | 37 | | | | | | 2 | 2 | | 41 |
| | 国際コミュニケーション 情報工学科 | | | | | 1 | 5 | | 2 | 2 | | | 5 | | | 15 |
| | 計 | | | | | 4 | 63 | 2 | 4 | 3 | | | 10 | 2 | | 88 |
| 平成20年度 | 電気情報工学科 | | | | | | 29 | 1 | 2 | | | | 5 | | | 37 |
| | 機械工学科 | | | | | | 27 | | | 1 | | | 3 | | | 31 |
| | 国際コミュニケーション 情報工学科 | | | | | 1 | 7 | | 5 | 4 | | | 7 | | | 24 |
| | 計 | | | | | 1 | 63 | 1 | 7 | 5 | | | 15 | | | 92 |
| 平成21年度 | 電気情報工学科 | | | | | 4 | 12 | 2 | 1 | | | | 3 | | | 22 |
| | 機械工学科 | | | | | 2 | 19 | | | 2 | | | 1 | | | 24 |
| | 国際コミュニケーション 情報工学科 | | | | | | 1 | | 2 | 3 | | | 5 | 2 | | 13 |
| | 計 | | | | | 6 | 32 | 2 | 3 | 5 | | | 9 | 2 | | 59 |
| 平成22年度 | 電気情報工学科 | | | | | 3 | 14 | 3 | 1 | 1 | | | 3 | | | 25 |
| | 機械工学科 | | | | | 1 | 19 | | | 2 | | | 1 | | | 23 |
| | 国際コミュニケーション 情報工学科 | | | | | | 3 | | 2 | 2 | | | 5 | 1 | | 13 |
| | 計 | | | | | 4 | 36 | 3 | 3 | 5 | | | 9 | 1 | | 61 |
| 平成23年度 | 電気情報工学科 | | | | | 4 | 12 | 1 | 2 | 1 | | | 1 | | | 21 |
| | 機械工学科 | | | | | | 19 | | | | | | 4 | | 1 | 24 |
| | 国際コミュニケーション 情報工学科 | | | | | | 14 | | 2 | | | | 7 | 1 | | 24 |
| | 計 | | | | | 4 | 45 | 1 | 4 | 1 | | | 12 | 1 | 1 | 69 |

(出典 進路指導委員会資料)

進路先一覧

平成 23 年度 進路先 一 覧

| 項目 学科 | 在籍者 | | 進学者 | | 就職者 | | | 自営・その他 | 求人会社数 | 求人数 | 求人倍率 |
|------------------|------------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|----------|-------|------------|-------------|
| | 卒業者数 | 留学者等 | 希望者数 | 合格者数 | 希望者数 | 内定者数 | 内定率(%) | | | | |
| 電気情報工学科 | 30 | 0 | 9 | 9 | 21 | 21 | 100 | 0 | 373 | 334 | 15.9 |
| 機械工学科 | 37 | 0 | 13 | 13 | 24 | 24 | 100 | 0 | | 321 | 13.4 |
| 国際コミュニケーション情報工学科 | 33 | 0 | 9 | 9 | 24 | 24 | 100 | 0 | | 266 | 11.1 |
| 総計 | 100 | 0 | 31 | 31 | 69 | 69 | 100 | 0 | | 921 | 13.3 |

| 業種 | 会社名 |
|------------------|--|
| 建設業 | KDDIテクニカルエンジニアリングサービス(株)、(株)三興 (株)日立ビルシステム、北陸電設(株) |
| 食料品・飲料・飼料・たばこ製造業 | (株)福光屋、森永乳業(株)、(株)森八大名園 |
| 化学工業・石油・石炭 | 旭化成(株)、DIC(株)、東レ(株)、(株)吉野工業所 |
| 鉄鋼・非鉄金属・金属製品製造業 | ※小松ウオール工業(株)、コマニー(株)、成光精密(株)、玉田工業(株)、東洋製罐(株) 本村アルミ(株) |
| 一般機械器具製造業 | (株)アクセス、(株)アルメックス、(株)稲本製作所、グローリー(株)、鉦研工業(株) ※澁谷工業(株)、※(株)鈴木鉄工、大京(株)、ダイキン工業(株)、高松機械工業(株) タケダ機械(株)、東芝エレベータ(株)、中村留精密工業(株)、(株)北都鉄工 三浦工業(株)、(株)森精機製作所 |
| 電気・情報通信機械器具製造業 | (株)エム・ワイ・テック、加賀東芝エレクトロニクス(株)、共和電機工業(株) (株)別川製作所 |
| 輸送用機械器具製造業 | 小島プレス工業(株)、パナソニック(株)オートモーティブシステムズ社 富士重工業(株) |
| その他製造業 | (株)IHI検査計測、日立アロカメディカル(株)、共栄樹脂(株)、日本山村硝子(株) (株)ユニクロ |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | 北陸電力(株) |
| 情報通信業 | (株)NTTネオメイト、※(株)ディック電子、(株)USEN |
| 卸売業 | (株)横山商会 |
| 医療業・保健衛生 | (株)ツムラ |
| 国家公務 | 自衛隊 |
| その他のサービス業 | アイエムエムフードサービス(株)、(株)石川検査、NECフィールドイング(株) (株)沖電気カスタマドテック、(株)金沢ホイス、五大開発(株) (株)サイタスマネジメント、(株)ダイテックス、東芝電機サービス(株) (株)富士通エフサス、(株)富士通関西システムズ、(株)ライジングスタイル |
| 進学 | 金沢工業大学(24名)、豊橋技術科学大学(2)、ロチェスター工科大学 金沢学院大学、京都精華大学、愛知学院大学 歯科技工専門学校 富山外国語専門学校 |

(株)省略 ※印の会社には2名以上が就職

(出典 進路指導委員会資料)

資料 6 - 1 - ③ - 5

進学状況 (進学者数)

| | | 編入学希望者数 | | 大学編入学者 | | | | | | | | | 大学1年次入学 | | | 高専専攻科入学 | | | その他 | | | 合計 | | | | | |
|--------|------------------|---------|----|--------|----|----|-------|----|----|---|----|---|---------|----|---|---------|----|---|-----|----|---|----|----|----|----|----|----|
| | | | | 3年次編入 | | | 2年次編入 | | | 計 | | | 男子 | 女子 | 計 | 男子 | 女子 | 計 | 男子 | 女子 | 計 | 男子 | 女子 | 計 | | | |
| | | 男子 | 女子 | 計 | 男子 | 女子 | 計 | 男子 | 女子 | 計 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平成19年度 | 電気情報工学科 | 16 | 0 | 16 | 13 | 0 | 13 | 3 | 0 | 3 | 16 | 0 | 16 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 16 | 0 | 16 | |
| | 機械工学科 | 9 | 0 | 9 | 9 | 0 | 9 | 0 | 0 | 0 | 9 | 0 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 0 | 9 | |
| | 国際コミュニケーション情報工学科 | 11 | 1 | 12 | 10 | 1 | 11 | 1 | 0 | 1 | 11 | 1 | 12 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 | 1 | 12 | |
| | 計 | 36 | 1 | 37 | 32 | 1 | 33 | 4 | 0 | 4 | 36 | 1 | 37 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 36 | 1 | 37 | |
| 平成20年度 | 電気情報工学科 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | |
| | 機械工学科 | 13 | 0 | 13 | 13 | 0 | 13 | 0 | 0 | 0 | 13 | 0 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 | 0 | 13 | |
| | 国際コミュニケーション情報工学科 | 8 | 0 | 8 | 6 | 0 | 6 | 2 | 0 | 2 | 8 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 0 | 8 | |
| | 計 | 22 | 0 | 22 | 20 | 0 | 20 | 2 | 0 | 2 | 22 | 0 | 22 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 22 | 0 | 22 | |
| 平成21年度 | 電気情報工学科 | 10 | 0 | 10 | 8 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 8 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 9 | 0 | 9 |
| | 機械工学科 | 18 | 0 | 18 | 15 | 0 | 15 | 3 | 0 | 3 | 18 | 0 | 18 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18 | 0 | 18 | |
| | 国際コミュニケーション情報工学科 | 13 | 0 | 13 | 11 | 0 | 11 | 2 | 0 | 2 | 13 | 0 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 | 0 | 13 | |
| | 計 | 41 | 0 | 41 | 34 | 0 | 34 | 5 | 0 | 5 | 39 | 0 | 39 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 40 | 0 | 40 |
| 平成22年度 | 電気情報工学科 | 5 | 0 | 5 | 5 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 5 | |
| | 機械工学科 | 16 | 1 | 17 | 16 | 1 | 17 | 0 | 0 | 0 | 16 | 1 | 17 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 17 | 1 | 18 |
| | 国際コミュニケーション情報工学科 | 12 | 2 | 14 | 12 | 2 | 14 | 0 | 0 | 0 | 12 | 2 | 14 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 1 | 5 | 16 | 3 | 19 |
| | 計 | 33 | 3 | 36 | 33 | 3 | 36 | 0 | 0 | 0 | 33 | 3 | 36 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 1 | 6 | 38 | 4 | 42 |
| 平成23年度 | 電気情報工学科 | 9 | 0 | 9 | 7 | 0 | 7 | 2 | 0 | 2 | 9 | 0 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 0 | 9 | |
| | 機械工学科 | 13 | 0 | 13 | 12 | 0 | 12 | 1 | 0 | 1 | 13 | 0 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 | 0 | 13 | |
| | 国際コミュニケーション情報工学科 | 6 | 0 | 6 | 6 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 6 | |
| | 計 | 28 | 0 | 28 | 25 | 0 | 25 | 3 | 0 | 3 | 28 | 0 | 28 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 28 | 0 | 28 |

(出典 進路指導委員会資料)

資料 6 - 1 - ③ - 6

進学状況 (進学先)

| 年度 | 学科名 | 金沢工業大学3年次編入 | | | | | | | | | | 金沢工業大学2年次編入 | | | | | | | | | | 他大学編入等 | 計 | 学科計 | 年度計 |
|--------|------------------|-------------|------------|----------|--------------|--------------|----------|--------------------|--------------|-----------|-------------------|-------------|------------|------------------|-------------------|------------|----------------|------------|--------------|------------|--|-----------------------------------|---------------------------------|-----|-----|
| | | 工学部電気電子工学科 | 工学部情報通信工学科 | 工学部機械工学科 | 工学部ロボティクス工学科 | 工学部航空システム工学科 | 工学部情報工学科 | 情報フロンティア学部メディア情報学科 | 情報学部メディア情報学科 | 情報学部情報工学科 | 環境・建築学部建築都市デザイン学科 | 計 | 工学部電気電子工学科 | 情報フロンティア学部心理情報学科 | 環境・建築学部建築都市デザイン学科 | 情報学部情報経営学科 | バイオ・化学部応用バイオ学科 | 環境・建築学部建築学 | 環境・建築学部化学工学科 | 情報学部心理情報学科 | 計 | 学校名 | | | |
| 平成19年度 | 電気情報工学科 | 3 | 8 | | | | 1 | | | | | 12 | | | | | | | 1 | 1 | 金沢大学工学部(電気工学科)1、名城大学(理工学部)1、オタゴポリテクニク1、専門学校1 | 4 | 17 | | |
| | 機械工学科 | | | 8 | 1 | | | | | | | 9 | | | | | | | | | 1 | 日産京都自動車大学校2 | 2 | 11 | |
| | 国際コミュニケーション情報工学科 | | | | | | 6 | 4 | | | | 11 | 1 | | | | | | | | 1 | 専門学校1 | 1 | 13 | |
| 平成20年度 | 電気情報工学科 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 機械工学科 | | | 6 | 6 | 1 | | | | | | 13 | | | | | | | | | | 1 | 専門学校1 | 1 | 14 |
| | 国際コミュニケーション情報工学科 | | | | | | | 3 | 3 | | | 6 | | | 2 | | | | | | 2 | 専門学校1 | 1 | 9 | |
| 平成21年度 | 電気情報工学科 | 6 | | | | | | | | | | 8 | | | | | | | | | | 1 | 専門学校1 | 1 | 9 |
| | 機械工学科 | | | 5 | 7 | 1 | | | | | | 13 | | | 1 | 1 | 1 | | | | 3 | 金沢大学工学部(機械工学科)1、徳島大学(工学部機械工学科)1 | 2 | 18 | |
| | 国際コミュニケーション情報工学科 | | | | | | | 4 | 6 | | | 10 | 1 | | 1 | | | | | | 2 | ワシントン州立大学1 | 1 | 13 | |
| 平成22年度 | 電気情報工学科 | 5 | | | | | | | | | | 5 | | | | | | | | | | | | 5 | |
| | 機械工学科 | | | 11 | 3 | | | | | | | 14 | | | 1 | | | | | | 1 | | | 15 | |
| | 国際コミュニケーション情報工学科 | | | | | | | 4 | 10 | | | 14 | | | | | | | | | | 3 | セントマイケルズ大学1、専門学校2 | 3 | 17 |
| 平成23年度 | 電気情報工学科 | 3 | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | | 1 | 豊橋技術科学大学2、金沢学院大学(経営情報学部情報ビジネス学科)1 | 3 | 8 | |
| | 機械工学科 | | | 8 | 1 | 3 | | | | | | 12 | | | 1 | | | | | | 1 | | | 13 | |
| | 国際コミュニケーション情報工学科 | | | | | | | 1 | 4 | | | 5 | | | | | | | | | | 2 | ロチェスター工科大学(米国)1、京都精華大学(デザイン学部)1 | 2 | 7 |

(出典 進路指導委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

進路決定率は100%を続けており、就職約70%、進学約30%で推移している。主な就職先は製造業の専門的・技術的職業従事者が多く、主な進学先は金沢工業大学への編入であり、設置学科の専門性と「Ⅱ 目的」に沿った進路となっている。本校の教育の特色に工学・英語協同学習が有り、海外の大学に進学する学生も出てきており、教育の成果や効果が上がっているといえる。

観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

学年末にKTC総合アンケートを実施し学生が自己点検すると共に、満足度や達成度評価の定量的な調査と、フリーアンサーによる定性的な調査を行っている(資料6-1-④-1：KTC総合アンケート)。また、学生は学年毎にキャリアデザインノートを記入し、自己分析を行うなど、自己の目標に対する達成度を評価している(資料6-1-④-2：キャリアデザインノート)。

資料 6-1-④-1

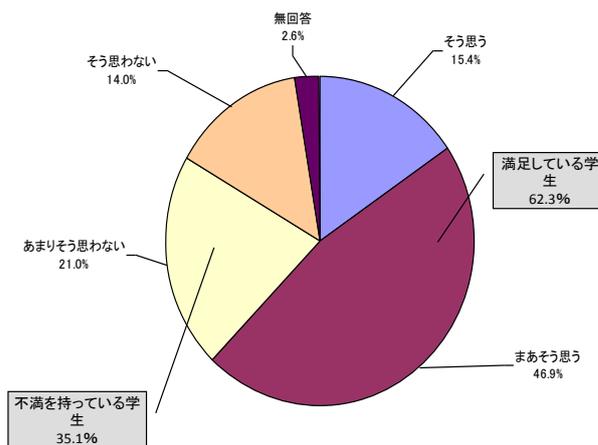
KTC 総合アンケート

<2-1> 金沢高専の総合的な満足度

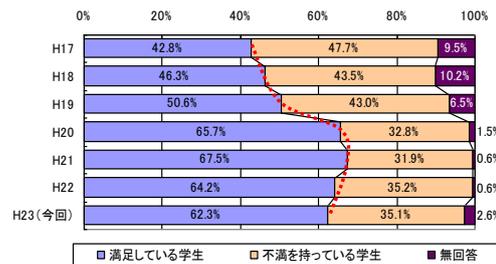
■本年度の総合的な満足度

- 「総合的に見て金沢高専に満足していますか？」という問いに関しては、15.4%が「そう思う」、46.9%が「まあそう思う」であり、合わせると62.3%が満足と答えており、不満を持っている学生は35.1%という結果であり、満足している学生の方が27.2ポイント多かった。
- 年度別比較を見ると、「満足している学生」の割合はH22より1.9ポイント減少しており、前回に引き続き前年を下回る結果となっていた。平成20年と平成21年には満足度は非常に高い状態を維持していたが、今回はH20年以降で最も低い結果となった。

■総合的に見て金沢高専に満足していますか？(在校生のみ)



■金沢高専の総合満足度 年度別比較



■金沢高専の総合満足度 年度別内訳

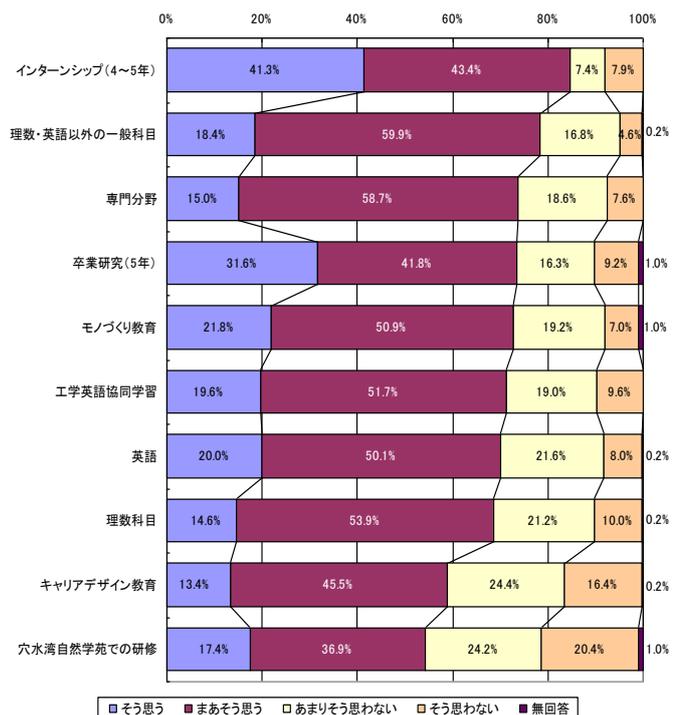
| 年度 | 満足している学生の合計 (%) | 不満を持っている学生の合計 (%) |
|---------|-----------------|-------------------|
| H17 | 42.8% | < 47.7% |
| H18 | 46.3% | > 43.5% |
| H19 | 50.6% | > 43.0% |
| H20 | 65.7% | > 32.8% |
| H21 | 67.5% | > 31.9% |
| H22 | 64.2% | > 35.2% |
| H23(今回) | 62.3% | > 35.1% |

<3-1> 授業に関して

■授業に対する評価

- 授業に対する満足度を「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較したところ、「インターンシップ」の満足度が84.7%で最も高かった。この科目は4年生、5年生のみの科目であるが、9割近くが満足しており、非常に評価が高かった。
- 上記に次いで、「理数・英語以外の一般科目」で78.3%、「専門分野」で73.7%、「卒業研究」で73.4%、「モノづくり教育」で72.7%と続いていた。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計で見ると上記のような順となっていたが、「そう思う」だけを見ると「インターンシップ」で41.3%、「卒業研究」で31.6%が「そう思う」と答えており、これらの科目では一部の学生が強い満足感を得ているようであった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「穴水湾自然学苑での研修」であり、44.6%が不満と答えており、次いで「キャリアデザイン教育」では40.8%が不満という答えであった。

■授業に対する満足度(在校生のみ)

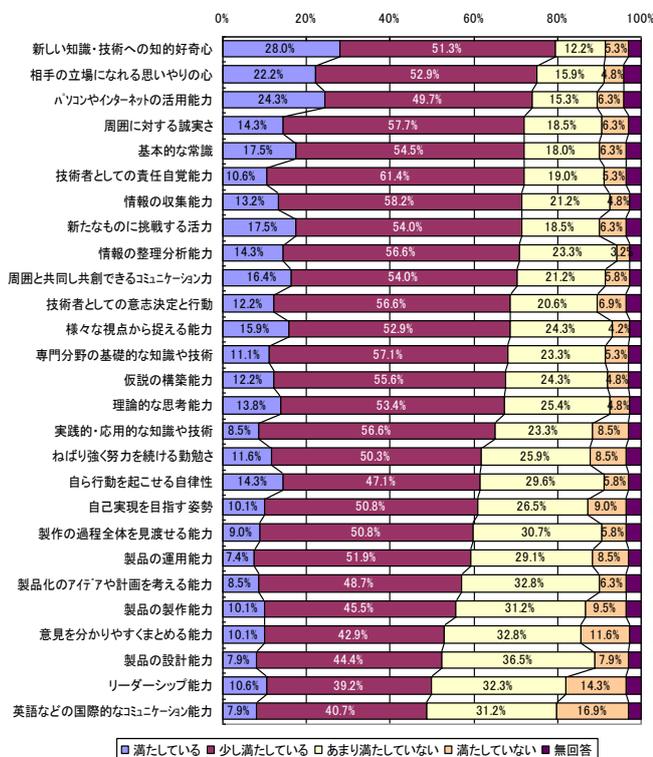


<6-1> 学生の能力に関して

■自分自身の能力の評価

- 「学生自身の現段階の自分自身の能力」に関しては、4年生、5年生の2学年だけに聞いている。
- 「満たしている」と「少し満たしている」を合わせた割合と比較すると、「新しい知識・技術への知的好奇心」で79.3%が満たしていると答えており、学生が最も強みと感じている点と言える。
- 上記に次いで「相手の立場になれる思いやりの心」(75.1%)、「パソコンやインターネットの活用能力」(74.0%)、「周囲に対する誠実さ」(72.0%)と続いており、これらも強みと感じているようであった。
- 一方、最も自信を持てていなかったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」であり、満たしているという回答は48.6%であった。そして、「リーダーシップ能力」(49.8%)、「製品の設計能力」(52.3%)、「意見を分かりやすくまとめる能力」(53.0%)と続いていた。

■学生が考える現段階の自分自身の能力



<12-9> その他、金沢高専に関する意見

■その他、金沢高専に関する意見-1

| 分野・意見数 | 意見内容 |
|---------|--|
| 教員 (16) | <ul style="list-style-type: none"> ●KIT-IDEALSについて昨年も言ったが先生方の考え方がまだはっきりしていないもっと考えるべきである ●あまり教員らしくない人がいるので、改善してほしい ●みずてなで。相談できる場がほしい。とりあえずひいきとかやめてほしい。奨学金生の基準がわからないので目標にしようがないので明確にしてほしい。 ●もう少し、学生の意見を取り入れるべきだと思う。 ●英語教育に力を入れるのはいいがその科目で始めて外国人の先生を採用する時にはぬきうちで授業をチェックしてほしい。〇〇が授業崩壊していた先生も遊んでいた ●何を記入しても反応が無いだろう。頭がかたく、古いタイプの人ばかり ●〇〇の態度が大き過ぎる。出来るなら辞めてほしい。〇〇科の中で問題があっても大体が学生が悪い風になるからもっと公平に考えてほしい。バスが遅れたら穴にしたい。 ●教え方が悪い。 ●教え方が悪い先生への指導があまりないと思う ●〇〇がよくない。 ●〇〇が必要ない ●〇〇はもう少し話をまとめてから喋った方がいいと思う。 ●生徒への、差別がひどいと思う。先生に嫌われたら終わりの高専だと感じる ●〇〇だよ〇〇の〇〇 ●担任が生理的にムリな場合どうすればいいですか。 ●同じ授業料を払っているのに教師によって内容がまったく違う。期末にこういったアンケートをとるなら学生にも結果を公開するべきだと思う。 |
| 設備 (14) | <ul style="list-style-type: none"> ●2階ロビーの気温調節 ●エレベーター作るとか言わないで、駐車場を作りたい。 ●グラウンドがせまい ●ドアを開けるのにカードを出すのが面倒 ●階段の板がいらぬ ●教室がせまい。教員が多い。温度調節がなっていない。 ●広すぎる ●高専にも保健室や、体育館があったほうがいいと思う。保健室がないと不便。工大のほうにあるけど、見てもらってもお金を取られるから、行くに行けない。体育祭は、もっとちゃんと準備したほうがいい。 ●室内あつい。温度設定しっかりして。 ●体育館に暖房を入れてほしい ●暖房が暑すぎる。 ●朝早く来た時に学校がさむい。早くから暖房をつけてほしい。 ●動く歩道をつけてほしい ●保健室を作りたい。 |

| 分野・意見数 | 意見内容 |
|-------------|---|
| 食堂、自販機 (12) | <ul style="list-style-type: none"> ●パンが何か食べ物の自販機があったら良いと思う。 ●移動販売の弁当の量を色々増やして欲しい ●金沢高専はムダが多過ぎ。クラスを増やしたほうがコミュニケーション能力も高まるから良いとおもう。あと自販機を増やす。あとむだに学費高いパソコンも必要なし。 ●購買を近くに作ってほしい。ぼったくりをやめたほうがいいと思う ●高専から食堂までの移動がひどく前より悪い(やねがない) ●自動販売機の飲み物の種類が少ない(ペットボトルの方) ●自販機の飲み物の種類を増やしてほしい ●自販機の飲み物の種類を増やしてほしい ●自販機の内容をかえてほしい。カップスープが飲みたい ●食堂が遠い ●電子レンジを増やす。 ●二階の自販機の種類を増やして |
| 行事 (10) | <ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな活動に参加した結果、必要最低限の行動しかしない方がいいという思考になった ●たのしい行事がしたい ●学校祭や体育祭が他の学校に比べて少し地味… ●講演会をするのはいいが毎年同じのをするのは意味がないと思う ●高専祭にAKBを呼んでほしい。 ●高専祭にLIVERworldを呼んでほしい。よろしく ●高専祭にもっと力を入れてほしい。もっと人が来るようなことをしたい。 ●卒業式の歌は「キャンバイ」がいいと思う ●体育祭と運動会はどっちかいい ●体育祭や球技大会は、友情に傷をつくると思います。やりたい人だけやれば良い。 |
| 通学 (10) | <ul style="list-style-type: none"> ●バスの遅れでも公欠に。 ●バスの遅れを公欠にしてほしい ●バスの遅刻を遅刻あつかいしないでほしい ●バスも公欠にしてほしい。 ●自動車・自動二輪での通学を許可してほしい。 ●自動二輪の取得も許可してほしい ●車で登校したい ●車で登校したい ●車登校ありにしてほしい。 ●不満点として、雪などでバスが遅れた場合の対応。金沢駅出る最も早いバスに乗っても遅刻する時がどうしようもないと思う。 |

■その他、金沢高専に関する意見-2

| 分野・意見数 | 意見内容 | 分野・意見数 | 意見内容 |
|---------------------|---|-------------|--|
| 授業、 かキョム (9) | <ul style="list-style-type: none"> ●自分の意見がもつと通るような環境にしてほしい。 ●資格の講座がもつとほしい。 ●学校の掃除は自分たちで行ったほうがよいと思う。 ●授業に音楽を入れてほしい。主に合唱など ●3年次に専門教科が少なかつたことが不満だつた ●一度策定した年度予定を現場の判断に依つて急に覆すのはやめてほしいかつた。今年度の中間試験廃止の方針がそれ ●後期末試験を1週間さき送りしてほしい ●授業がぬるい。5倍速でもいい授業がある。飯がまずい ●授業の在り方 最終学年なのに授業が多すぎる ●赤点高すぎ ●中間テストはやるかやらないかハッキリさせるべき。テストをするなら期末のように期間を設けてやってほしい。 | 部活動 (5) | <ul style="list-style-type: none"> ●かけ、けんかなどないクリーンな麻雀部を作りたい ●バイトを許可してほしい ●もう少し部活にも力を入れるべき ●勉学には十分充実といえるが、課外である部活動にも、もう少し意識を持つてほしい。 ●〇〇の〇〇まじでかえてほしい |
| 人間関係、 マナー (9) | <ul style="list-style-type: none"> ●クラスがひとつにならない。 ●クラスの仲があまり良くない。好きじゃない。クラス替えしたかつた。先生の態度がヤダ。 ●ライブラリーセンターの音楽を聞く部屋の受付の態度が悪くてとても不快だつた。 ●各クラスがうるさい。さわがしい。態度が悪い ●学生会の方にもう少し早く仕事をしてもらいたい ●女子が少ないです。 ●上級生が怖いですわね… ●男女差別が激しい。女子が少ないのを理由に女子には甘い。単位認定の制度がコロコロ変わりすぎある程度一定の期間で行うべき変える意味がない。 ●男女平等にしてほしい | 学費 (4) | <ul style="list-style-type: none"> ●お金が高い ●もう少し安くしてほしい学費 ●学費を安くして下さい。エレベーター要りません。 ●学費安くして下さい… |
| 満足 (7) | <ul style="list-style-type: none"> ●放課後に先生が質問等にに応じていただいているのでとても親切である ●就職率は本当に素晴らしい。 ●いろいろな施設があり良いと思う。 ●様々な充実した学校で大変良い。 ●5年間ありがとうございました ●5年通して、充実した日々々に満足しています ●毎日楽しい。 | ネット (2) | <ul style="list-style-type: none"> ●ネットでの悪口や分かつてても現行犯しか捕まえられない等の対処能力を上げてほしい。 ●ネット上をもつと監視したほうがよい。休校などを希望者にメールで教えてほしい。 |
| アンケート (5) | <ul style="list-style-type: none"> ●アンケートは取るだけですか？ ●このアンケートの必要性はあるのか。意見は反映されているのか。 ●コレが時間の無駄 ●毎年、改善へのアンケートがあるが、特に意味のない改善が多いように思う。もう少し、大きな変化を求めたい。 ●毎年アンケートを書いているが、意味はあるのか | その他 (11) | <ul style="list-style-type: none"> ●〇〇・〇〇 ●もつと精進します ●頑張り ●肉 ●満足も不満もない ●3年でやめても高卒の資格がほしい ●ピアスとかをもつと強く罰するべき ●もう少し人数をしぼつてほしい。 ●公欠になる時(雪などによる)の判断をもつとはやくしてほしい。中間テストのテスト期間(部活休止)がほしい ●公欠の判断を早めにしてほしい。 ●雪がつめたい。 |

(出典 KTC 教育評価委員会資料)

業界の進歩の速度を勘案し、実施年は柔軟に対応しており、最近では平成23年度に実施した。

企業に対しては、教員が企業訪問を行っており、企業に卒業生の状況や本校の教育についてヒアリングを行い、アンケートとは別に直接教育の成果や効果について確認している。

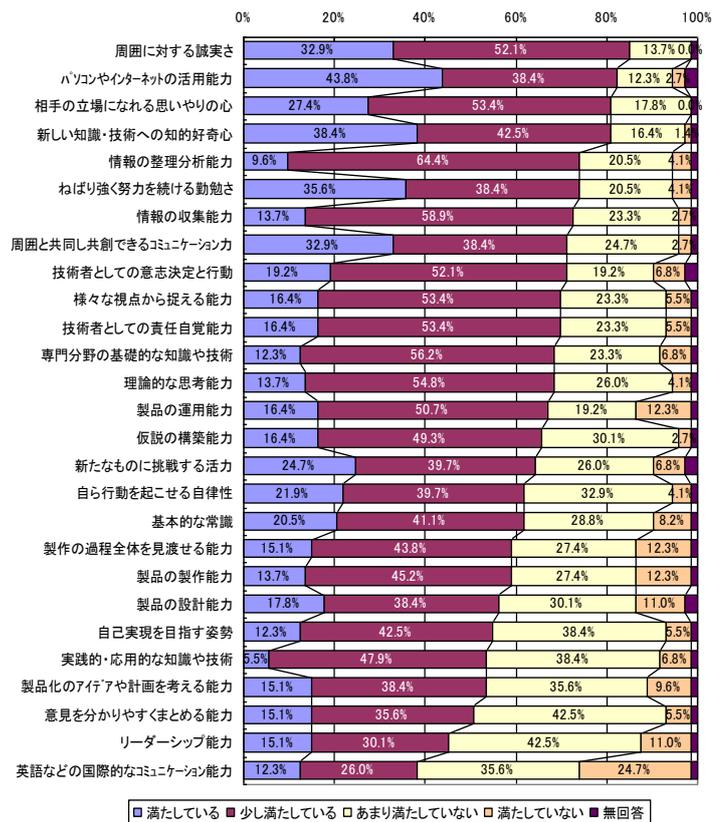
資料6-1-⑤-1

卒業生アンケート結果

■卒業生による自分自身の能力の評価

- 今回は卒業生に卒業時の自分自身の能力の評価を聞いた。「満たしている」と「少し満たしている」を合わせた割合と比較すると、最も評価が高かった項目は「周囲に対する誠実さ」であり、85.0%が満たしていると評価していた。
- 上記に次いで高かったのは「パソコンやインターネットの活用能力」で、82.2%が肯定的な意見であったが、この項目では「満たしている」という回答が43.8%と多く、この点を強く特徴だと感じているようであった。
- 上記に「相手の立場になれる思いやりの心」「新しい知識・技術への知的好奇心」を加えた4項目は肯定的な意見が80%を超えており、これらが卒業生が感じる金沢高専卒業生の強みといえることができる。
- 一方、自己評価が最も低かったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」であり、満たしているという回答は38.3%にとどまった。他に「リーダーシップ能力」「意見を分かりやすくまとめる能力」「製品化のアイデアや計画を考える能力」なども低かった。

■卒業生が考える卒業時点の自分自身の能力



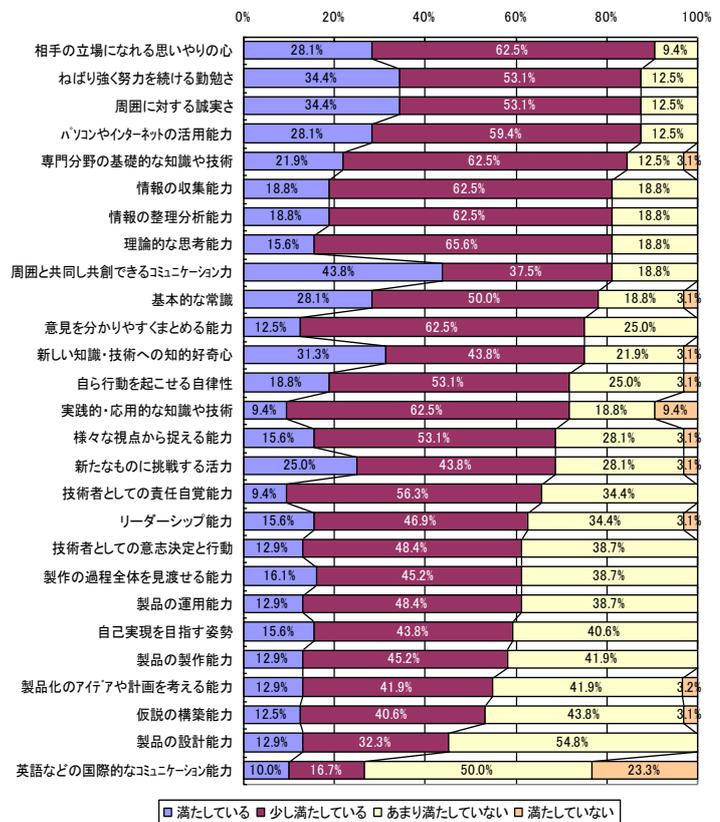
(出典 KTC 教育評価委員会)

企業アンケート結果

■企業による卒業生の能力評価

- 今回は企業の担当者に金沢高専の卒業生の評価を聞いた。この質問では該当者のことが分からないなど、無回答が多かったため、無回答を除いて集計を行っている。
- 最も評価が高かったのは「相手の立場になれる思いやりの心」であり、肯定的な意見は90.6%であった。
- 上記に次いで「ねばり強く努力を続ける勤勉さ」(87.5%)、「周囲に対する誠実さ」(87.5%)、「パソコンやインターネットの活用能力」(87.5%)、「専門分野の基礎的な知識や技術」(84.4%)と続いており、上位のものを見ると「思いやり」「勤勉さ」「誠実さ」といったキーワードが見られ、人間性が高く評価されている様子が見えたと見られる。
- 一方、最も評価が低かったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」であり、肯定的な意見は26.7%で、他と比べてもかなり低い評価となっていた。
- 「製品の設計能力」(45.2%)、「仮説の構築能力」(53.1%)、「製品化のアイデアや計画を考える能力」(54.8%)といったものも評価が低く、これらを見ると英語と共に実践的な能力が不十分であると見られているようであった。

■企業による金沢高専卒業生の能力評価



(出典 KTC 教育評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

KTC総合アンケートでの卒業生の能力に関する調査項目では、全体的に企業担当者からの評価が卒業生の自己評価よりも高い結果となった。特に「相手の立場になれる思いやりの心」については90.6%が「満足している」「少し満足している」との回答をいただき、本校が大切にしている人間形成が教育の中で実践された成果と考えている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校ではアンケート調査を学生、卒業生、企業、教職員に対して実施し、その調査結果を基にした改善施策が組織的に展開されている。その成果として文部科学省のGP事業での採択や、学生募集における定員割れの脱却などが挙げられる。

就職率100%、就職先においても製造業の専門的・技術的従事者が多く、学生に対する社会の評価は高いと認識している。進路状況は本校の教育目標に沿っていることから、教育の成果や効果が現れていると考える。

企業から本校の教育に関する評価では、教育の特色として挙げる「ものづくり教育」「工学・英語

協同学習」「キャリア教育」の評価が全て前回の調査を上回っており、本校の教育は社会からの要請にも対応していると考ええる。

(改善を要する点)

学生、卒業生共に自分自身の能力は「英語などの国際的なコミュニケーション能力」について自信を持ってないでいる学生がいることから、更なる改善が必要と認識している。

(3) 基準6の自己評価の概要

本校では学生が卒業時に身につける学力や資質・能力「人間性」「創造性」「国際性」「基礎力」「専門力」を「資質A」から「資質E」の5項目と定め、各授業科目がどの資質を育むためにあるのかを明確にしている。

授業評価は学習支援計画書(シラバス)の評価方法に従った達成度評価を行い、卒業時に身につける学力や資質・能力については資質AからE毎の授業科目の単位修得状況でその達成状況を把握している。また、授業毎の達成状況については成績評価と授業アンケートの満足度と併せて多面的に、本校の教育全体の達成状況についてはKTC総合アンケートを行い、学生の自己評価と教職員による学生評価として把握している。これらの評価結果はKTC教育評価委員会にて総合的に評価され、改善活動につなげている。本校では教育の成果や効果が上がっているかを判断する指標として、上記の達成状況の評価とは別に休学・留年・退学・進級・卒業の状況を用い、また、5年生には卒業時にKTC総合アンケートで「社会で求められる人材像」の自己評価を行っていることから、この結果を合わせて総合的に教育の成果や効果について判断している。

また、本校の進路状況は、就職70%、進学30%で推移している。就職率は100%を維持しており、職業別には専門的・技術的職業従事者が多く、産業別には製造業が多くを占めている。進学希望者に対する進学率も100%を維持しており、進学先は金沢工業大学及び他大学編入と、一部は海外の大学へも進学している。これらの状況は、本校の教育の目的が意図しているものであり、教育の成果や効果が上がっていると考えられる。

また、卒業生アンケートと卒業生が就職した企業への企業アンケートを5年毎を基本に実施している。これは社会情勢の急激な変化や、産業界の進歩の速度を勘案して柔軟に実施しており、最近では平成23年度に実施された。その結果、前回の調査よりも本校の3つの教育の特色に関する評価は全て上がっており、社会要請への対応はできていると考えている。